

ランドスケープデザイン

Landscape Design

非常勤講師 玉木伸秀

e-mail:

授業内容

概要 町並み、橋やトンネル、道路等、公共構造物が主体となる土木構造物では、人々が目に触れることが多く、人々に不快な印象を持たさないような配慮が必要である。ランドスケープデザインでは視覚的環境をいかによくするかを考え、実例を参考にしつつ市民のための公共デザインを学ぶ。

講義予定

- 1回 土木技術者がデザインについて学ぶ意味を考え、講義の全体像とポイント、学習の進め方などを説明する。
- 2回 公共デザインの複数の本からデザインの考え方、基礎概念を明確にする。
- 3回 世界の公共デザインを多数の画像データから学ぶ。
- 4回 同上。考察レポート提出。
- 5回 国内の公共デザインのうち景観デザイン賞を受賞した作品1を鑑賞、評価する。
- 6回 国内の公共デザインのうち景観デザイン賞を受賞した作品2を鑑賞、評価する。
- 7回 大学周辺の優れた公共デザインの実例1を現場見学する。
- 8回 考察レポート作成提出。デジタル画像データを提出。
- 9回 大学近郊の優れた公共デザインの実例2を現場見学する。
- 10回 考察レポート作成提出。デジタル画像データを提出。
- 11回 小グループによる景観研究その1。
- 12回 小グループによる景観研究その2。
- 13回 小グループによる景観研究作品の相互評価と考察。
- 14回 今回の講義全体を系統的にまとめ、関連する今後の展開を示す。景観製作作品の講評を行う。
- 15回 定期試験

教科書

なし

参考書

海外の公共デザインの本

学習到達目標

- ① 土木構造物のデザインの意味とは何か、どのような構造がいいデザインかを実施例を参考に様々な角度から評価できる能力、素質を身につける。
- ② 国内、国外の優れた公共デザインの実例を書物、現場実例を鑑賞することによって、デザインセンスを高め、小グループによる景観研究により、頭の中だけでなく、体験的学習を行う。

授業の方法と特徴

- ① **聴くだけでなく視覚を通して理解を助ける行動的な授業**
講義を聴くだけでなく、国内外の事例をみてデザインの考え方を学ぶ。多くの橋梁デザイン画像データを閲覧、鑑賞し、デザイン感覚を養う。
- ② **現場見学の実施**
大学の近くの実際の公共デザインを見学し、デザイン評価を行う。
- ③ **小グループによる景観研究の実施**
小グループで自ら計画したデザイン事例を発表し、デザイン相互評価を行う。これにより発表者だけでなく他の受講生にも関心を持たせる。

成績評価の方法

レポート(数回)、及び定期試験による総合評価を行う。成績評価の配分はレポート30%、小グループによる景観研究30%、定期試験40%とする。レポート未提出や作品を出さない場合は不合格とする。

教員からのメッセージ

- ① デザインの考え方の基本を始めにしっかりと理解しておくこと。
- ② 最近デザイン設計された町並みを現場で見て評価、考察する課題は特に重要なテーマであるため、自分で十分に調査して、写真を加えて文章にまとめ、授業で積極的に発表してほしい。これにより、文章表現力やプレゼンテーション能力も身につく。
- ③ グループで自ら計画した景観を形作することは時間がかかるが積極的に取り組んでほしい。